白石市文化財調査報告書 第３０集

市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ

平成１８年３月

白石市教育委員会

市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ

序　　文

当市では本年度も市内遺跡発掘調査事業を実施しました。本書はそれらの調査成果をまとめたものです。

調査を行ったのは23地点で、そのうち10地点から縄文時代・古代・中世の遺構・遺物が確認されました。特に本年は古代苅田郡の郡役所（郡衙）跡と推定されている大畑遺跡の調査が多く実施されており、全確認調査件数の3分の1を占めています。調査要因が個人住宅などの小規模開発のため、それぞれの調査区は狭隘で得られる情報もわずかですが、全容解明のための大規模調査の実施も難しい現状では、このような調査を持続していくことが未だに内容をほとんど知ることができない苅田郡衙の様相解明に繋がるのではと期待しています。

一方、当市では白石市博物館建設に対する市民の機運が高まってきており、改めて郷土の歴史を振り返る時期に来ています。今後は埋蔵文化財の調査にあわせ、市内の一般文化財の調査も本格化します。地域の歴史と文化を読み解き、その情報を蓄積していくことは郷土の理解を深めることにつながり、ますます重要な責務になってくると考えます。

徐々に世代交代が進み、もはや明治・大正でさえ遠い昔と感じられる今日、より多くのことを未来の世代に伝えるためにも、より一層文化財保護行政の充実をはかってまいりたいと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたって多大なご協力・ご理解をいただきました関係各位に厚く御礼申し上げ、感謝の言葉といたします。

平成18年3月

白石市教育委員会

教育長　高　橋　　昌

目　　次

序　文

例　言

1．大畑遺跡……2～8

2．祢宜内遺跡……9～10

3．三本木遺跡……11～12

4．月心院遺跡……13～14

5．志在家遺跡……15～17

写真図版……18～20

例　言

1．本書は、白石市教育委員会が平成17年度に実施した市内遺跡発掘調査事業にかかる試掘調査結果の報告である。なお本事業は市単独で実施し、事業費は742千円である。

2．本事業は白石市教育委員会が主体となり、関係各位の協力を得て実施した。また、発掘調査を実施したのは以下の地点であるが、これらのうち遺構に伴う埋蔵文化財が発見されなかった調査については本書への掲載を割愛した。

3．土層の色調標記については、『新版標準土色帖』（小山・竹原、1996）を用いた。

No.	遺跡名	遺跡番号	所在地	調査要因	調査期間
1	菅生田遺跡	02032	白石市福岡蔵本字菅生田地内	ガスパイプライン白石川推進立坑建設	平成17年4月18日
2	大仏上遺跡	02024	白石市越河五賀字台地内	ガスパイプライン敷設	平成17年4月20日
3	大畑遺跡	02262	白石市字東大畑地内	宅地造成および住宅新築	平成17年6月22日
4	大畑遺跡	02262	白石市字堂場前・字大畑一番地内	宅地造成および住宅新築	平成17年7月13日
5	志在家遺跡	02359	白石市大鷹沢三沢字前輪地内	宅地造成および住宅新築	平成17年8月17日
6	祢宜内遺跡	02430	白石市字祢宜内地内	公共下水道敷設	平成17年9月8～9日
7	大畑遺跡	02262	白石市字東大畑地内	宅地造成	平成17年9月14日
8	大畑遺跡	02262	白石市字堂場前・字大畑一番地内	住宅新築	平成17年9月20日
9	大畑遺跡	02262	白石市字東大畑地内	宅地造成	平成17年10月1日
10	白石条里制跡推定地	02400	白石市旭町５丁目地内	物置解体及び住宅新築	平成17年10月11日
11	白石条里制跡推定地	02400	白石市旭町４丁目地内	宅地造成及び共同住宅建築	平成17年10月17～18日
12	谷津川遺跡	02133	白石市東町３丁目地内	携帯電話無線中継所建設	平成17年11月4日
13	谷津川遺跡	02133	白石市東町３丁目地内	携帯電話無線中継所建設	平成17年11月17日
14	白石条里制跡推定地	02400	白石市旭町３丁目地内	宅地造成および住宅新築	平成17年11月21日
15	下館遺跡 中屋敷遺跡	02377 02248	白石市福岡蔵本字一本木地内 大平鼻合字鼻合沖地内	ガスパイプライン敷設	平成17年11月22日
16	三本木前遺跡	02308	白石市福岡深谷字北上地内	ガスパイプラインバルブステーション建設	平成17年12月20日 平成18年3月15日
17	月心院遺跡	02324	白石市大平森合字寺前地内	ガスパイプラインバルブステーション建設	平成18年1月25日
18	道内原遺跡	02311	白石市福岡深谷字道内原地内	宅地造成及び住宅新築	平成18年2月8日
19	大畑遺跡	02262	白石市字東大畑地内	駐車場敷設	平成18年2月13日
20	志在家遺跡	02359	白石市大鷹沢三沢字前輪地内	宅地造成および住宅新築	平成18年2月28日
21	大畑遺跡	02262	白石市字東大畑地内	駐車場敷設	平成18年3月8～9日
22	白石条里制跡推定地 和尚堂遺跡	02400 02401	白石市大鷹沢大町字和尚堂地内	坂端道路改良事業	平成18年3月24・27日
23	下館遺跡	02377	白石市福岡蔵本字鑓ノ口地内	住宅新築	平成18年3月30日

4．検出遺構の略号は以下の通りである。

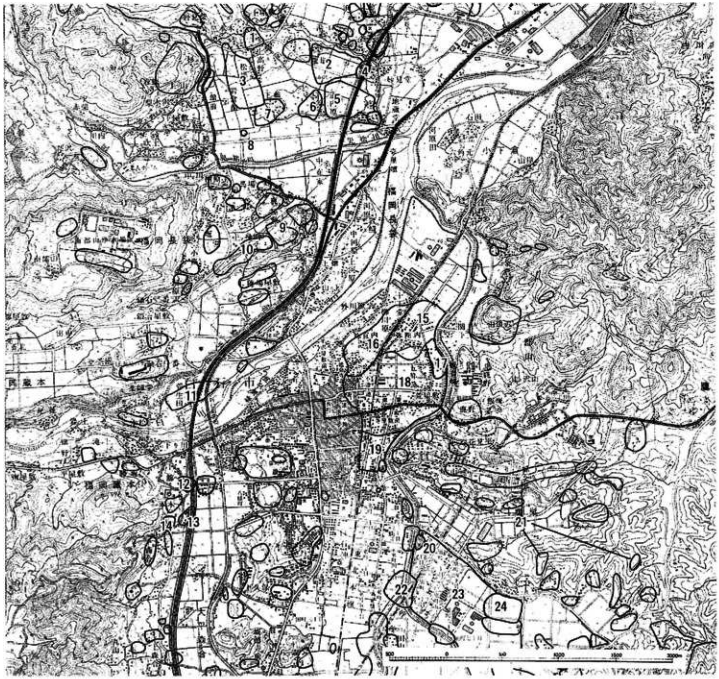
　SI：竪穴住居跡　　SD：溝跡　　SK：土壙　　P：柱穴

5．本事業の調査の実施は宮城県白石市教育委員会社会教育課 日下和寿・津田優佳が、報告書本文執筆は津田が担当した。

6．発掘調査の実施、報告書作成等にあたっては、次の機関・方々から多大なご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。（敬称略、順不同）

石油資源開発株式会社、ＪＦＥエンジニアリング株式会社、株式会社佐久間工務店、松野土地家屋調査士事務所、上西正典、我妻正彦土地家屋調査士事務所、有限会社佳企画、有限会社阿部工営社、大野久雄、八巻健志、安藤みち子土地家屋調査士事務所、白石市都市整備課、有限会社長山組、鈴木靖子、株式会社西山工務店、佐藤しん、佐藤建設、佐藤文弘、株式会社サタケ工務店、佐竹一男、タナカ測量設計事務所、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北、有限会社シーエーコンサルタント、ボーダフォン株式会社、菱電湘南エレクトロニクス株式会社、株式会社京電工、久保京子、セキスイハイム株式会社、佐藤奉樹、佐藤節子、株式会社アイユー、森徹土地家屋調査士事務所、大野久雄、大野行雄、山崎哲夫、鎌田建設株式会社、佐竹正克土地家屋調査士事務所、家納久美、岡部とき子、宮城県大河原土木事務所、宮城県教育庁文化財保護課、高橋建設株式会社

7．本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会社会教育課が保管している。



番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	上高野遺跡	散布地・製鉄遺跡	縄文早～中・奈良・平安	13	中屋敷陣屋跡	陣屋	近世
2	荒井遺跡	散布地・製鉄遺跡	縄文前～晩・弥生・古代	14	月心院遺跡	散布地・寺院	古代・近世
3	三本木前遺跡	散布地	縄文前・後・晩・古代・中世	15	祢宜内遺跡	散布地	弥生～平安
4	御所内遺跡	集落	縄文早・中・後・平安	16	祢宜内遺跡	散布地	奈良・平安
5	青木遺跡	集落	縄文早・中・晩・弥生・平安	17	観音崎遺跡	集落	古墳後～平安
6	下舘遺跡	散布地・城館・製鉄遺跡	縄文後・平安・中世	18	大畑遺跡	散布地・官衙	弥生～中世
7	道内原遺跡	散布地・製鉄遺跡	奈良・平安	19	本郷遺跡	散布地	古代
8	堂田廃寺跡	寺院	平安	20	梅田遺跡	集落	弥生・古墳
9	下ノ神明遺跡	散布地	縄文中・平安	21	鷹巣古墳群	前方後円墳・円墳	古墳・古代
10	田上遺跡	散布地	縄文前・中	22	谷津川遺跡	散布地	縄文～古代
11	曽生田遺跡	集落	縄文前～後・弥生	23	白石条里制跡推定地	水田跡	古代・中世
12	下舘遺跡	散布地	古代	24	和尚堂遺跡	散布地	縄文後・古代

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

1．大畑遺跡

Ⅰ．調査要項

遺　跡　名：大畑遺跡（おおはたいせき）
県遺跡番号：02262　遺跡記号：ＯＨ
所　在　地：白石市字東大畑・字堂場前・字大畑一番地内
調査要因：個人住宅新築
調査期日：平成１７年６月２２日、平成１７年７月１３日、平成１７年９月１４日、
平成１７年９月２０日、平成１７年１０月１日、平成１８年２月１３日、
平成１８年３月８日～３月９日

Ⅱ．調査にいたる経緯

大畑遺跡は弥生時代～中世に属し、養老５年（721年）に建郡された苅田郡の郡衙跡と推定されている遺跡で、これまでにも道路の建設などに伴いたびたび発掘調査が行われてきている。しかし、これまでの調査は開発に伴うものであったことから断片的なものが多く、遺跡の構成については不明な点が多い。

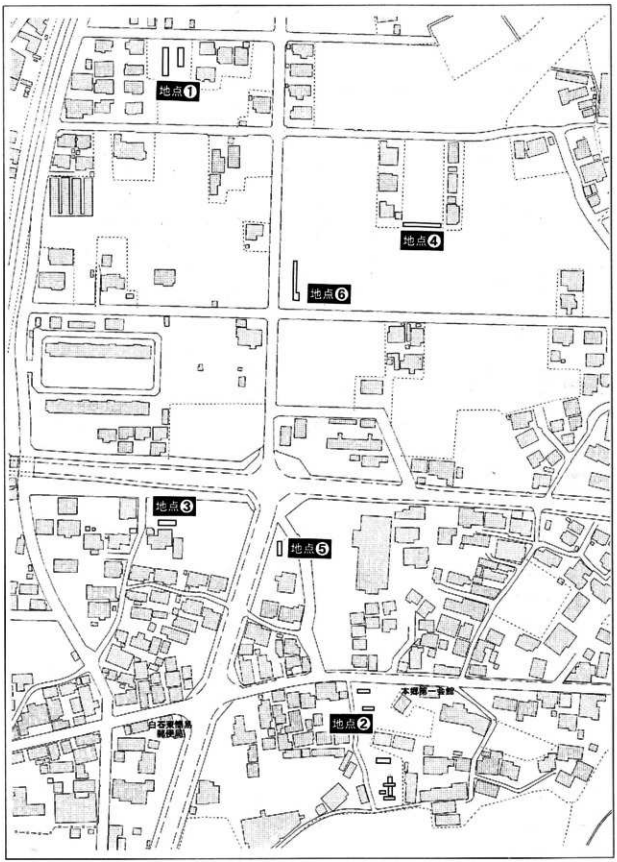
当市において大畑遺跡は近年最も宅地化されている遺跡の１つで、調査要因はいずれも個人住宅の建築や宅地造成等である。１件あたりの発掘調査対象面積はそれほど広くないが、遺跡の内容把握のため土地所有者の方々等のご協力を得て発掘調査を実施した。なお、今年度の調査箇所は６地点、昨年度は３地点である。

Ⅲ．遺跡の位置と環境

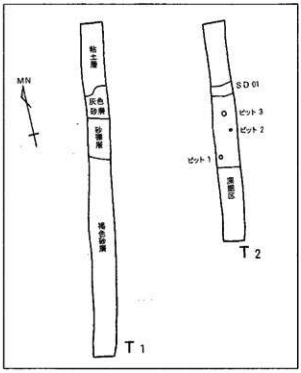
大畑遺跡は白石市字大畑一番・字大畑二番・字東大畑ほかに所在し、東北本線白石駅のすぐ北方に南北750ｍ・東西850ｍの広い範囲で位置している（第１図）。白石川と斎ヶ川によって形成された自然堤防上に立地し、遺跡の東辺は白石盆地を北流する斎ヶ川に接している。標高は約40～45ｍで大部分は畑地や水田であるが、東北本線西側はすでに密集した宅地となっており、東側部分も近年は徐々に宅地化が進行しつつある。

本遺跡はこれまでに国道113号線バイパス建設に伴う発掘調査がなど実施された（近藤和夫1991、八嶋伸明1995）。これらの調査では掘立柱建物跡や礎石総柱建物跡、溝跡などの遺構や瓦などの遺物が確認され、その結果から苅田郡衙と関連する可能性も指摘されている。

周囲には斎ヶ川を中心に古代の遺跡が多く見られ、観音崎遺跡、北無双作遺跡、梅田遺跡などの集落跡がある。また、昭和15～23年の斎川河川改修工事の際には堤防沿いから多くの完形品に近い土師器が発見されている（白石市史編さん委員編1976）。東方に位置する鷹巣丘陵上には宮城県指定史跡の鷹巣古墳群が造営され、斎ヶ川西岸には銚子ヶ盛古墳が、大畑遺跡の南東１kmほどの地域には白石条里制跡推定地が所在する。



第２図　大畑遺跡調査区位置図（Ｓ＝１/２,５００）



第３図　地点①　遺跡配置図（S＝1／200）

Ⅳ．調査方法と成果

大畑遺跡で発掘調査を実施した６地点のうち、５地点で遺構・遺物および遺物包含層が検出された。以下にそれらの出土内容について記す。

【地点①：平成１７年６月２２日実施】

調査は届出のあった828㎡のうち34.8㎡について実施した。調査区の基本層序は第１層(耕作土)：暗褐色砂質シルト層(粗砂を含む)、第２層（堆積土）：暗褐色粘土質シルト層、第３層（遺構確認面）：にぶい黄褐色砂層である。

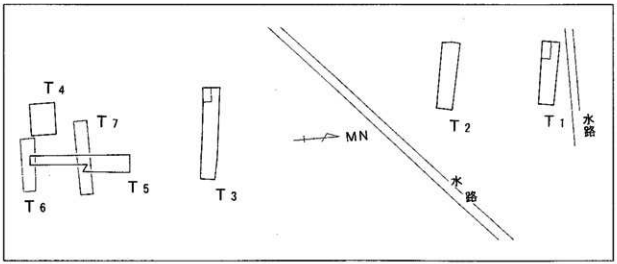
調査の結果、Ｔ２のＧＬから55cmほどの深さから溝１条・ピット３基が検出された。

調査区はＴ１・Ｔ２を南北方向に設定し、Ｔ１から掘り下げを実施したが、層の理解を誤り、Ｔ２の南側１／３は掘りすぎてしまった。Ｔ２で遺構が検出されたことから、Ｔ１でもセクションを再確認したが、層序が異なっていたことなどからＴ１に遺構が確認していたのかは確認できていない。

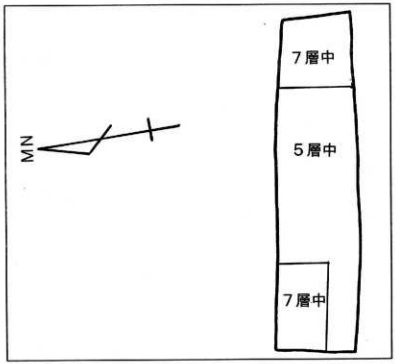
また、溝堆積土から円田式期の土器片１点のほか、土器片がわずかに出土した。

なお、大畑遺跡では７件の調査を実施したが、いずれの調査も遺構の平面形が検出された段階で事業主と再協議し、遺跡への影響が少ない施工方法を採用してもらったため、基本的にそれ以上の掘り下げは行なっていない。発掘調査終了後は写真・図面等で記録を作成し、埋め戻している。

以下にそれぞれの遺構について記す。



第４図　地点②　トレンチ配置図（S＝1／250）



第５図　地点③　遺構配置図（Ｓ＝１／100）

・ＳＤ０１溝跡

Ｔ２北側の第３層上面で検出された。溝の堆積土からは土器片等が少量出土している。

・Ｐ１～３

Ｔ２中央の３層上面で検出された。ピットの大きさは10～30cmであるが、調査区域の制限からこれらがどのように組み合うかは確認できなかった。遺物は確認されていない。

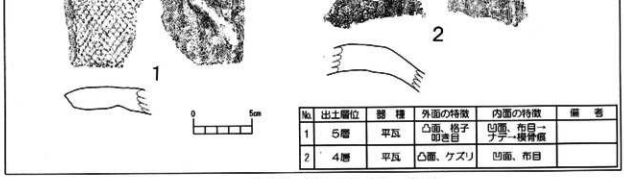
なお、遺構検出後は遺構の平面形を写真・図面で記録し、埋め戻した。

【地点②：平成１７年７月１３日および９月２０日実施】

調査は届出のあった1,449.82㎡のうち、57.08㎡について実施した。調査対象地は一連ではなく北側と南側に別れており、以下便宜的に北側部分を北区、南側を南区と呼ぶ。

調査区は北区にＴ１・Ｔ２、南区にＴ３～Ｔ７を設定した。調査期日が期間をおいて２日に及んでいるのは、はじめに遺構確認調査を実施した結果遺跡への直接的な影響はないと判断されたが、その後土壌改良をする計画へ変更となったことからその部分について再度発掘調査を実施したものである。

調査区の基本層序は北区で第１層（表土①・耕作土）：暗褐色シルト質粘土層、第２層（表土②）：暗褐色シルト質粘土層、第３層（盛土）：にぶい黄褐色砂層、第４層（遺物包含層）：黒褐色粘土層で４層上面まではＧＬから85cmである。南区は第１層（盛土）：褐色砂層、第２層（旧表土）：黒褐色粘土質シルト層、第３層（遺物包含層）：黒褐色粘土層



No.	出土層位	器　種	外面の特徴	内面の特徴	備　考
1	5層	平瓦	凸面、格子叩き目	凹面、布目→ナデ→横骨痕	
2	4層	平瓦	凸面、ケズリ	凹面、布目	

第６図　地点③　出土遺物（S=1／3）

第７図　地点④　土層断面模式図

で、３層上面まではＧＬから 85cmである。調査の結果、調査対象地には厚さ 25～60cm程の遺物包含層が広がっていることが確認されたが、遺構は検出されなかった。

また、南区南半はかつて産業廃棄物の捨て場として利用される等たびたび改変を加えられている土地であることが判明した。

遺物は北区及び南区から出土しているが、いずれも小片で図示できるものはなかった。

【地点③：平成１７年９月１４日実施】

調査は届出のあった 314㎡のうち 18㎡について実施した。調査区の基本層序は第１層（表土）：灰黄褐色シルト層、第２層：褐灰色シルト層、第３層：褐色シルト層、第４層（遺物包含層）：第３層と第５層の混土、第５層（遺物包含層）：黒褐色粘土質ルシト層、第６層にぶい黄褐色シルト層、第７層にぶい黄褐色シルト質砂層である。

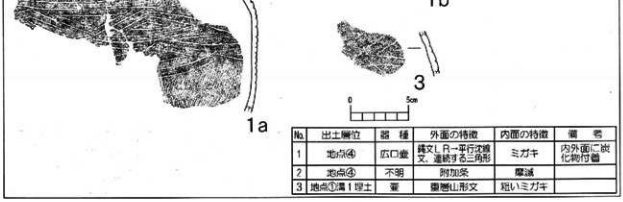
調査の結果、遺構は確認されなかったがGLから 64cmの４層から布目瓦片１点が、５層からは布目瓦片１点と棒状鉄器片が１点程出土したことから付近に瓦葺の建物跡の存在が予想された。

【地点④：平成１７年１０月１日実施】

この地点の扱いはもともと工事立会だったが立会中に遺構が確認されたため急遽記録のために調査を実施したものである。

遺構が発見されたのは擁壁設置のために根掘りされた部分の断面で事業地の南西隅から 6.5ｍの所で土坑、竪穴状遺構、厚さ17cmの焼土が各１基確認された。焼土は竪穴状遺構に伴うものとみられる。

立会箇所では第１層（水田床土）：にぶい黄橙色シルト層、13cm、第２層：褐灰色シルト層、20cm、第３層：褐灰色シルト層、11cm、第４層：褐灰色土層、10cm、第５層（古代の遺構確認面）：黒褐色土層、弥生土器を含む 27cm以上、第６層黄褐色砂礫層となっている。



No.	出土層位	器　種	外面の特徴	内面の特徴	備　考
1	地点④	広口壺	縄文ＬＲ一平行沈線文、連続する三角形	ミガキ	内外面に炭化物付着
2	地点④	不明	附加条	摩滅	
3	地点①第１埋土	壺	重層山形文	粗いミガキ	

第８図　地点④　出土遺物（Ｓ＝１／３）

遺物は土師器甕、弥生土器の広口壺が出土している。
遺構の確認状況は第７図のとおりである。

【地点⑤：平成１７年２月１３日実施】

調査は届出のあった224㎡のうち13.2㎡について実施した。調査区の基本層序は第１層（表土）：暗褐色シルト層、第２層：黒褐色粘土質シルト層、第３層：黒褐色粘土層、第４層（掘り下げ停止面）：褐色粘土層、第５層：黒褐色粘土質シルト層である。

調査の結果、遺構は確認されず、遺物は内黒土師器坏底部片が１片のみだった。

【地点⑥：平成１７年３月８日～３月９日実施】

調査は届出のあった919㎡のうち76.8㎡について実施した。調査区の基本層序は第１層（表土）：黒褐色粘土質シルト層、第２層（整地層）：褐色粘土層、第３層（地山・遺構確認面）：オリーブ褐色シルト層である。

調査の結果、現ＧＬから65cmの深さで竪穴住居跡１棟、土坑１基、溝２条、遺物包含層が確認された（第９図）。また、遺物は土師器が出土している。

以下にそれぞれの遺構について記す。

・ＳＩ０１住居跡

調査区南端の３層上面で検出された。検出できたのは北東コーナーのみで、全体規模は不明である。住居跡の一部が掘り下げられているのは調査をこの部分から開始したため、当初住居跡の堆積土中であると気付かなかったためである。北辺には煙道のつくカマドを有している。住居の堆積土中からは土師器甑、坏が出土している。

・ＳＫ０１土坑跡

ＳＩ０１住居跡の北東コーナーの北側40cmで検出された。形状は方形基調で直径約80cmである。

・ＳＤ０１溝跡

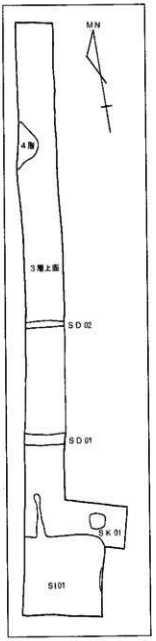
３層上面で検出され、幅約60cmである。溝は東西に走っており、以下に記すＳＤ０２溝跡とほぼ水平方向となっている。掘り下げを実施していないため、溝の断面形状は不明である。

・ＳＤ０２溝跡

３層上面で検出され、幅約30cmである。溝の断面形状は不明である。

・遺物包含層

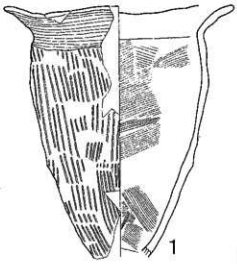
調査区北側の３層上面で検出された。遺物包含層はもともと調査区北側に広がっていたものである。

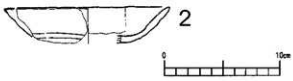


第９図　地点⑥
遺構配置図（Ｓ＝１／２００）

V．考察とまとめ

今年度は大畑遺跡での発掘調査は６地点で実施した。調査の結果、一定の遺構の広がりが確認された。





No.	出土層位	器　種	外面の特徴	内面の特徴	備　考
1	地点⑥ ＳＩＯ１埋土	甕	口縁部は横ナデ、体部は縦方向の刷毛目、黒色物質付着、黒斑あり	ナデ、黒斑あり	口径 20cm、残存高 22cm
2	地点⑥ＳＩＯ１埋土	坏	摩滅、僅かに段あり	内黒、摩滅	推定口径 13cm

第 10 図　地点⑥　出土遺物（Ｓ＝１/３）

2．祢宜内遺跡

Ⅰ．調査要項

遺　跡　名：祢宜内遺跡（ねぎうちいせき）
県遺跡番号：02430　遺跡記号：ＮＧ
所　在　地：白石市字祢宜内地内
調査要因：公共下水道敷設工事
調査期日：平成１７年９月８日～９月９日

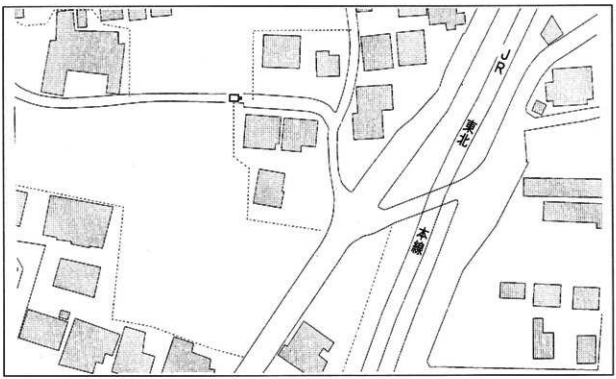
Ⅱ．調査にいたる経緯

祢宜内遺跡は大畑遺跡に隣接し、奈良・平安時代の遺跡であるとみられている。今回はもともと発掘調査をする予定ではなく、公共下水道敷設に伴う工事立会という扱いだったが、立会中に土師器片・須恵器片が伴う竪穴状遺構が確認されたため急遽担当課と協議し、遺跡の内容を記録するために調査が実施された。

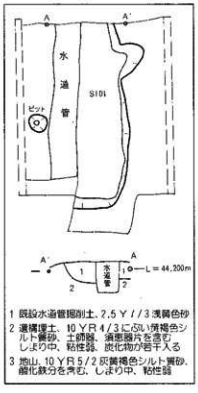
Ⅲ．遺跡の位置と環境

祢宜内遺跡は白石市字祢宜内・十王堂北ほかに所在し、東北本線白石駅の北方約750ｍに位置している。白石川と斎ヶ川によって形成された自然堤防上に立地し、これらの川は祢宜内遺跡から１kmほど北の地点で合流する。標高は約40～45ｍである。

本遺跡の南側は苅田郡衙跡と推定されている大畑遺跡の北隣に位置する。遺跡は白石川と、白石川の支流である斎ヶ川によって形成された自然堤防上に立地し、斎ヶ川沿いには古代の遺跡が数多く分布している。それらには集落跡である観音崎遺跡、北無双作



第11図　調査区位置（Ｓ＝１/１,000）



第12図　竪穴状遺構平面図
断面図（S＝1/40）

遺跡、梅田遺跡などがあり、斎ヶ川の河川改修工事の際には多くの遺物が採集されている（白石市史編さん委員編 1976）。

なお、平成16年度には今回の調査地点から北に50mの地点で駐車場敷設工事に伴う遺構確認調査が実施され、土坑1基が検出されている（津田優佳 2005）。

遺跡の現状は大部分が水田及び畑地であるが、遺跡の南端から住宅が建設されはじめてきており、徐々に遺跡は失われてきている。

Ⅳ．調査方法と成果

調査及び立ち会いは通知のあった160㎡のうち、遺構・遺物の確認されたマンホール設置地点2.96㎡と管埋設箇所で実施した。

調査区の基本層序は第1層：黒褐色土、第2層：褐色土と暗褐色土、第3層：暗褐色土(遺物包含層)、第4層：褐色土、第5層：褐色砂礫層、第6層：褐色砂層である。

調査の結果、GL下50cmほどの深さで竪穴状遺構1基が検出された（第12図）。

・竪穴状遺構

調査区域の制約から住居跡の全体形は不明であるが、東西1.9m、南北1.3m以上の規模を持つ。遺構の北東隅が検出されたことから方形基調と考えられるが、遺構内は既設水道管によって東西方向に切られている。北辺には幅30cmほどの張り出しを持つ。深さは20cm程度と確認された。遺構底面には直径18cmのピットが検出されている。内黒土師器、須恵器が若干出土している。

なお、この調査で遺構の記録が取られたことから、その後予定通り下水道管の敷設を進めた。

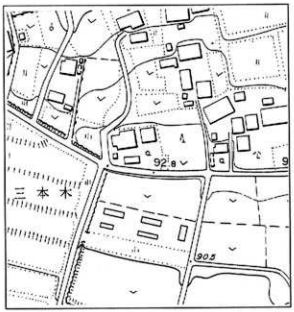
Ⅴ．考察とまとめ

今回の調査では検出された遺構は竪穴状遺構1基である。マンホール設置個所以西では土師器を含む遺物包含層が確認されていることから、付近に同時代の遺構が広がっていることが推定される。

3．三本木前遺跡

Ⅰ．調査要項

遺　跡　名：三本木前遺跡（さんぼんぎまえいせき）
県遺跡番号：02308　遺跡記号：ＳＢＭ
所　在　地：白石市福岡深谷字北上地内
調査要因：ガスパイプラインバルブステーション建設
調査期日：平成17年12月20日・3月15日



第13図　調査区位置図（Ｓ＝1／2,500）

Ⅱ．調査にいたる経緯

三本木前遺跡は縄文時代前・後・晩・古代・中世に属する遺跡とみられている。

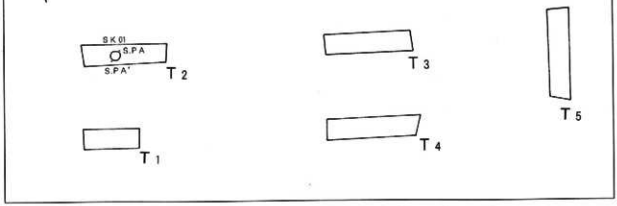
この度の発掘調査は白石市～福島県郡山市までガスパイプラインが開通するのに伴い、遺跡の範囲内にバルブステーションを建設する計画が持ち上がったことに起因する。

この計画では表土を剥いだ後、盛土造成してバルブステーションを建設する予定となっていたが、一部配管が深く入る予定だったことから、工事に先立ち遺跡の状態を確認するため、発掘調査を実施した。

Ⅲ．遺跡の位置と環境

三本木前遺跡は白石市福岡深谷字三本木前・松場・下舘ほかに所在し、白石市役所の北方約3.5kmの地点に位置している。遺跡は幅250ｍ、長さ375ｍの広い範囲をもつ。

遺跡は深谷台地の西端部、標高90～92ｍの辺りに立地しており、西方には蔵王山脈から派生する山並みが迫っている。三本木前遺跡はもともと三本木遺跡と三本木前遺跡の２つの遺跡だったが、統合され現在の範囲となっている。本遺跡で本格的な調査が実施されたことはないが、遺跡内には縄文土器片・石鏃・磨製石斧などのほか、土師器片



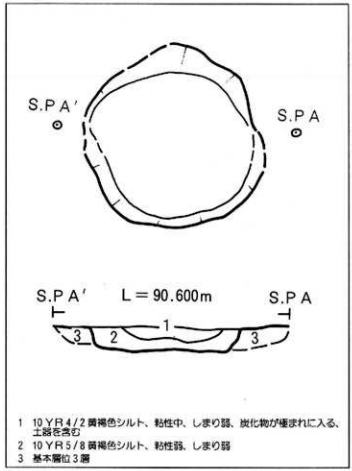
第14図　トレンチ、遺構配置図（Ｓ＝1／4,000）

・須恵器片が広く分布する。周囲には上高野遺跡・高野遺跡・下館遺跡などの製鉄遺跡が存在し古代の遺跡が多い一方、縄文時代の遺物も多く確認されている地域である。

現状は大部分がほ場整備実施後の水田となっており、今後もこの状態が維持されるとみられる。

Ⅳ. 調査方法と成果

調査は届出のあった1447㎡のうち、89㎡について発掘調査を実施した。今回の調査では調査対象地内に調査区を5箇所設定し、重機と調査員等で精査している。基本層序は第1層（客土）：黒褐色粘土質シルト層、第2層(整地層):褐色粘土層、第3層(遺構確認面):オリーブ褐色シルト層である。

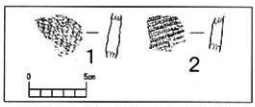


第15図　土坑平面図、断面図（S＝1/20）

調査の結果、現表土となっている第1層と第2層の層理面がかなり鮮明であることから、第1層は過去に削平を受けた後、もたらされた客土であり、もともとの地層は第3層以下であることが確認された。また、T2から土坑が1基検出され、堆積土からは繊維を含む縄文土器片が出土した。石鏃先端片（埋土2出土、残存長1.6㎝、幅1.3㎝、厚さ0.5㎝、半透明石英）も出土しているが、小片のため図示できなかった。以下に遺構の概要について記す。

・SK01土坑跡

T5第3層上面で検出された。平面形は円形を基調とするが、遺構検出面はすでに削平を受けているため、本来の土坑の深さや形状ではなく、削平後の状態である。現在の規模は直径約95㎝、深さ13㎝で、底面はほぼ平坦である。底部の立ち上がりは急である。堆積土は第1層：灰黄褐色シルト層（炭化物をわずかに含む）、第2層：黄褐色シルト層の2層である。



第16図　出土遺物（S＝1/3）

No.	出土層位	器　種	外面の特徴	内面の特徴	備　考
1	土代1層上1層	深鉢	縄文LR	ミガキ	繊維土器
2	土代1層上1層	深鉢	縄文LR	ミガキ	繊維土器

Ⅴ. 考察とまとめ

土坑から出土した土器に繊維が含まれることから縄文時代早期末～前期初頭の時期のものと考えられる。周辺地域はすでにほ場整備が実施されているが、今回遺構の残存が確認されたことから、ある程度の削平は受けているものの大幅な改変ではなく、遺跡が残存している可能性は高いと考えられる。

4．月心院遺跡

Ⅰ．調査要項

遺　跡　名：月心院遺跡（げっしんいんいせき）
県遺跡番号：02324　遺跡記号：ＧＳＩ
所　在　地：白石市大平森合字寺前地内
調査要因：ガスパイプラインバルブステーション建設
調査期日：平成１８年１月２５日

Ⅱ．調査にいたる経緯

月心院遺跡は古代・近世に属する遺跡とみられている。この度の発掘調査は白石市～福島県郡山市までガスパイプラインが開通するのに伴い、遺跡の範囲内にバルブステーションを建設する計画が持ち上がったことに起因する。この計画では表土を剥いだ後、盛土造成してバルブステーションを建設する予定となっていたが、一部配管が深く入る予定だったこと、遺跡のほぼ中央部に建設予定であることから工事に先立ち遺跡の状態を確認するため発掘調査を実施した。

Ⅲ．遺跡の位置と環境

月心院遺跡は白石市大平森合字寺前・字北中屋敷に所在し、白石市役所の西南約１kmの地点に位置している。遺跡は白石盆地の西端にあり、遺跡のすぐ西方には山並みが迫っている。幅100ｍ、長さ200ｍの範囲をもち、標高76～90ｍの丘陵上に立地している。

月心院は1648年に開山した臨済宗の寺院だったが、明治初年に廃寺となった（飯沼寅

第17図　調査区位置図（Ｓ＝1／2,500）

治 1984)。ここには真田幸村夫妻の菩提を弔う位牌が安置してあったほか、明治元年に福島で暗殺された奥羽鎮撫総督府下参謀世良修蔵らの首級が埋葬されていたと伝えられている。また、付近には土師器片を確認することができるが、本格的な発掘調査が実施されたこともなく、詳細については不明な点が多い。

周囲には中屋敷陣屋跡・一本木遺跡といった近代の遺跡のほか、神明遺跡・下館遺跡のような古代の遺跡もみられる。

Ⅳ. 調査方法と成果

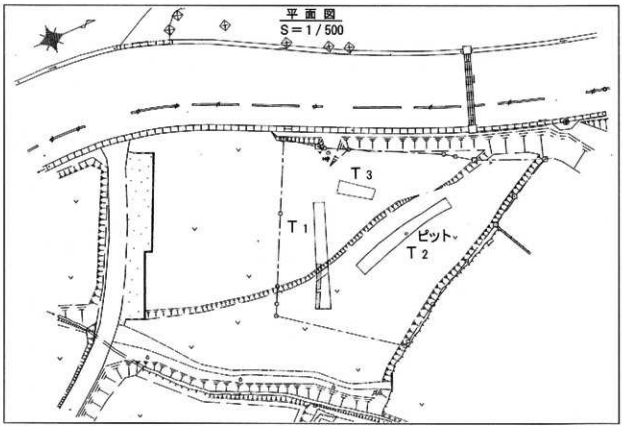
調査は届出のあった 748.7㎡のうち、54㎡について発掘調査を実施した。調査対象地内に調査区を３箇所設定し、重機と調査員等で精査している。基本層序は第１層（表土）：褐色粘土質シルト層、第２層：褐色粘土質シルト層、第３層（遺構確認面）：橙色粘土（粗砂を含む）層である。

調査の結果、ＧＬ下 42cmほどの深さからピット１基が検出された。ピットは直径約 40cmである。

遺物はいずれの調査区からも出土していない。

Ⅴ. 考察とまとめ

今回の調査でピット１基が検出された。しかし、遺物がまったく検出されなかったため、年代は不明である。調査対象地の位置は遺跡の中心部であるが遺構・遺物の密度共に薄く、遺跡範囲について検討の余地がある。



第 18 図　調査区位置図（S＝1／500）

5．志在家遺跡

第19図　調査区位置図（S＝1/2,500）

Ⅰ．調査要項

遺　跡　名：志在家遺跡（しざいけいせき）
県遺跡番号：02359　遺跡記大鷹沢三沢字前輪地内
調査要因：宅地造成および住宅新築
調査期日：平成17年8月17日、平成18年2月28日

Ⅱ．調査にいたる経緯

志在家遺跡は縄文・古代に属する遺跡とみられている。この度の発掘調査は遺跡の範囲内で宅地造成し、個人住宅を新築する計画が持ち上がったことに起因する。今回調査対象地となった地点の北側に隣接する住宅建築の際にも確認調査を実施した結果、遺構は検出されなかったものの堆積土中から土師器片が多く出土し、遺構の存在が予想された。今回の工事は盛土を伴うものであったが、浄化槽が設置される予定があったことなどから住宅建築に先立ち遺跡の状況を把握するため発掘調査を実施した。

Ⅲ．遺跡の位置と環境

志在家遺跡は白石市大平字志在家・大鷹沢三沢字前輪に所在し、白石市役所の東南約2.6kmの地点にある。遺跡周辺は阿武隈山地から派生した丘陵が東側から迫り、毛無山から北に延びている丘陵の先端部にあたる。白石盆地の東南端に位置し、幅125m、長さ200mの範囲で標高53～54mに立地している。

これまで石鏃・土師器・須恵器片が確認されているが、本格的な発掘調査が実施されたことはなく、詳細については不明な点が多い。

周囲には原下遺跡・瘤石遺跡・五丁目遺跡・西在家遺跡・久保沢遺跡などがあり、いずれも志在家遺跡と同様に古代に属するとみられている。遺跡の西側には坂谷古墳群が位置し、古墳時代の遺跡もいくつか確認されている。そのほか、遺跡東側には南北朝戦乱時に一時北畠顕信の居城となった三沢城跡がある。

Ⅳ．調査方法と成果

志在家遺跡で発掘調査を実施した2地点でともに遺構・遺物および遺物包含層が検出された。いかにそれらの出土内容について記す。

【地点①：平成17年8月17日実施】

調査は届出のあった230㎡のうち、8.5㎡について発掘調査を実施した。基本層序は第1層（表土）：にぶい黄褐色粘土層、第2層（盛土）：黒褐色粘土層、第3層（盛土）：オリーブ黒色粘土（粗砂を含む）層、第4層（盛土）：褐色粘土（粗砂を含む）層、第5層

（遺物包含層）：暗褐色粘土層である。

調査の結果、現ＧＬ下90～120cmほどの深さから土師器片が出土したため、調査員が精査した所、トレンチ北側で溝状遺構が確認されたため、調査区を西側に拡張した。トレンチ南側ではピット１基が確認されている。

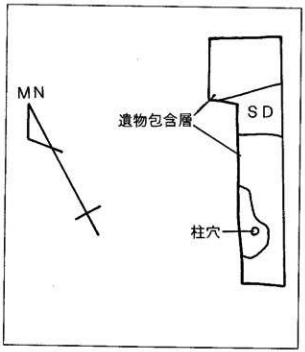
以下にそれぞれの遺構について記す。

・溝状遺構

第５層上面で検出された。溝状遺構は遺物包含層を切っているが、遺物は確認できなかった。

・ピット

直径約20cmである。表杉ノ入式坏破片１点が出土している。



第20図　地点①　遺構配置図（S＝1／100）

【地点②：平成１８年２月２８日実施】

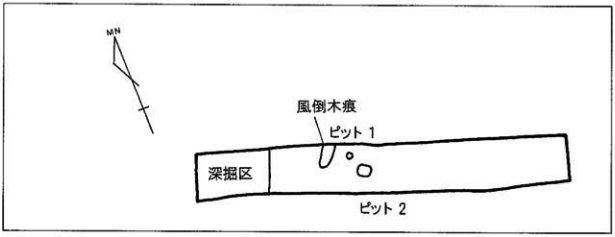
調査は届出のあった230㎡のうち、11.8㎡について発掘調査を実施した。基本層序は第１層（表土）：褐色粘土質シルト層、第２層：明褐色粘土質シルト層、第３層：橙砂質シルト層、第４層：にぶい黄褐色粘土（粗砂を含む）層、第５層：橙粘土層である。

調査の結果、現ＧＬ下65cmほど掘り下げたところでピット２基が検出された。ピットの直径はピット１が20cm、ピット２が40cmである。また、両者の西側で風倒木痕が確認された。

Ⅴ．考察とまとめ

地点①の溝状遺構は遺物の検出がなかったため、明確な時期は不明である。しかし、遺物包含層の出土遺物には表杉ノ入式期の土師器片があるため、溝状遺構はそれ以後のものと考えられる。

地点②の調査対象区西側１／４はすでに表土がなく、西斜面を切土して造成されたものである。トレンチ周辺からは土師器片・須恵器片・中世陶器片が数点表採されたが遺構に伴うものは検出されていない。



第 21 図　地点②　遺構配置図（S＝1 / 100）

主要参考文献

津　田　優　佳（2005）『白石市文化財調査報告書第 29 集　市内遺跡発掘調査報告書 I』白石市教育委員会

八　嶋　伸　明（1995）「大畑遺跡」『宮城県文化財調査報告書 168 集　大畑遺跡ほか』宮城県教育委員会

近　藤　和　夫（1991）「大畑遺跡」『宮城県文化財調査報告書第 144 集　舘南囲遺跡ほか』宮城県教育委員会

飯　沼　寅　治（1984）「白石地方の伝承」『白石市史３の（２）　特別史（下）の１』白石市

中　橋　彰　吾ほか(1977)『白石市文化財調査報告書第 17 集　三部山遺跡調査報告書』白石市教育委員会

白石市史編さん委員編（1976）『白石市史 別巻 考古資料篇』白石市

写真図版

写真1 大畑遺跡 地点② T1 全景（東から）

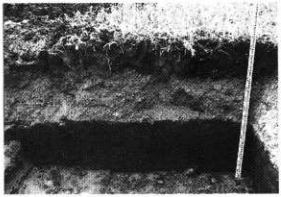


写真2 大畑遺跡 地点② T1 北壁セクション（北から）

写真3 大畑遺跡 地点② T3 全景（西から）

写真4 大畑遺跡 地点② T3 南壁セクション（北から）

写真5 大畑遺跡 地点① T2 遺構検出状況（北西から）

写真6 大畑遺跡 地点③（東から）トレンチ全景

写真7
大畑遺跡 地点①
T1 全景（北から）

写真8
大畑遺跡 地点④
土坑断面（南から）

写真8
大畑遺跡 地点⑤
調査区全景（北から）

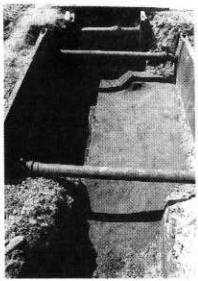


写真9
祢宜内遺跡
竪穴状遺構
完掘状況（東から）

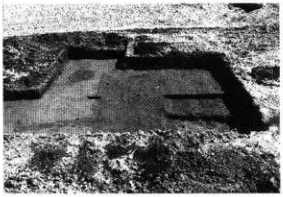


写真10 大畑遺跡 地点⑧ SI01 住居跡、
SK01土坑跡 検出状況（西から）

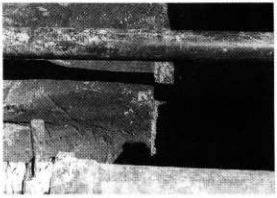


写真11 祢宜内遺跡 竪穴状遺構 断面（西から）

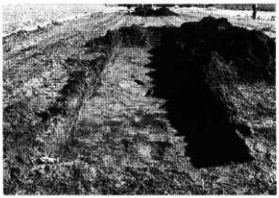


写真12 三本木前遺跡 T2 全景（西から）

写真13 三本木前遺跡 T1 南壁セクション（北から）

写真14 三本木前遺跡 SK01 土坑跡セクション（南東から）

写真15 三本木前遺跡 SK01 土坑跡完掘状況（北東から）

写真16 月心院遺跡 T2 全景（南から）

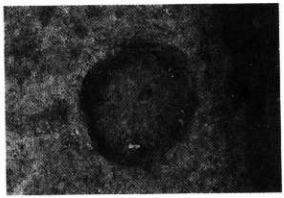


写真17 月心院遺跡 T2 ピット検出状況（南から）

写真18 志在家遺跡地点② トレンチ全景（西から）

写真19 志在家遺跡地点① トレンチ全景（南から）

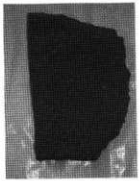


写真20（第6図1）

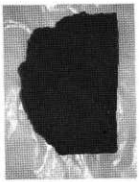


写真21（第6図1）

写真24（第10図1）

写真22（第6図2）

写真23（第6図2）

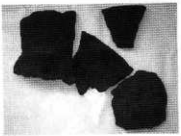


写真25（第8図1）

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ2
書名	市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ
副書名	
巻次	
シリーズ名	白石市文化財調査報告書
シリーズ番号	第30集
編著者名	津田優佳
編集機関	白石市教育委員会
所在地	〒989-0296 宮城県白石市字寺屋敷前25番地6 TEL：0224（22）1343
発行年月日	西暦2006年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おおはたいせき 大畑遺跡	白石市字東大畑・字大畑一番・字堂場前	04206	02262	38°00′26″ 38°00′11″ 38°00′13″ 38°00′17″ 38°00′24″ 38°00′16″ 38°00′22″	140°37′55″ 140°38′01″ 140°38′00″ 140°37′55″ 140°38′02″ 140°37′58″ 140°37′58″	20050622 20050713 20050914 20050920 20051001 20060213 20060308 ～ 20060309	34.80 27.38 18.0 29.7 25.5 13.2 76.8	宅地造成 住宅新築 駐車場敷設
ねまちうちいせき 祢宜内遺跡	白石市字祢宜内	04206	02430	38°00′29″	140°37′51″	20050909	3.12	公共下水道敷設
さんぼんぎいせき 三本木前遺跡	白石市福岡深谷字北上	04206	02308	38°01′56″	140°37′02″	20051220	89.00	バルブステーション建設
げっしんいんいせき 月心院遺跡	白石市大平森合字寺前	04206	02324	37°59′42″	140°36′35″	20060125	54.00	バルブステーション建設
さいけいえいせき 志在家遺跡	白石市大鷹沢三沢字前輪	04206	02359	37°58′45″	140°38′29″	20050817 20060228	8.5 11.8	駐車場 敷設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大畑遺跡	散布地・官衙	弥生・奈良安・平・中世	竪穴住居跡1，竪穴状遺構1，溝2，ピット6，遺物包含層4	土師器（栗囲式ほか）、弥生土器（円田式）	栗囲式期の竪穴住居跡1棟
祢宜内遺跡	散布地	奈良・平安	竪穴状遺構1、遺物包含層1	土師器、須恵器	
三本木前遺跡	散布地	縄文前・後・晩・古代・中世	土坑1	縄文土器（早期末～前期初頭）、石鏃	
月心院遺跡	散布地・寺院	古代・近世	ピット1	なし	
志在家遺跡	散布地	縄文・古代	ピット3、溝1	土師器（表杉ノ入式）、中世陶器	溝跡は表杉ノ入式期以降

要約	

白石市文化財調査報告書　第３０集
市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ
平成１８年３月３０日印刷
平成１８年３月３１日発行
編集・発行　白石市教育委員会
〒989-0206　白石市字寺屋敷前25番地6
電話：0224(22)1343
印　刷　(株)不忘印刷所
〒989-0273　白石市字中町25
電話：0224(26)2070